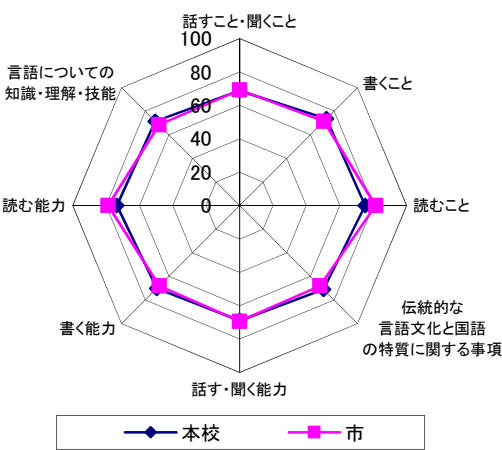


宇都宮市立中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	68.9	69.3	73.4
	書くこと	73.6	71.3	74.6
	読むこと	75.2	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.1	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	68.9	69.3	73.4
	書く能力	70.3	68.1	71.7
	読む能力	73.5	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	71.5	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

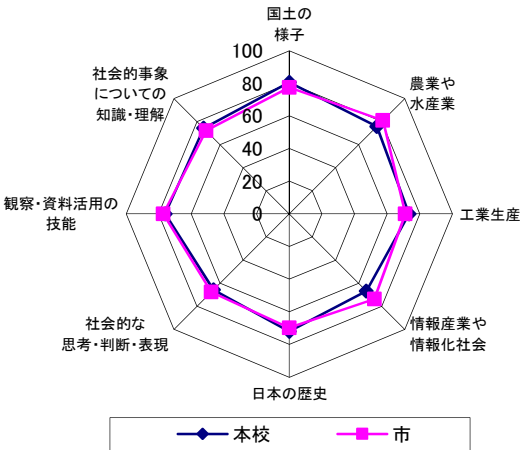
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話し方の工夫を考えながら、話し合いの内容を聞くことについては、平均正答率が90%で市の平均を4.3ポイント上回っており、話し方の工夫についての理解が深まっている。 ●司会者の役割を理解して計画的に話し合うことについては、市の平均正答率を5.6ポイント下回っている。司会者の役割や話し合いの進め方についての理解には課題がみられる。	・授業の中での話し合い活動を通して、司会の役割を理解させたり、話し合いの流れを見通した話し合いの仕方や工夫を意識させたりして、話し合いのスキルの向上を図りたい。
書くこと	○市の平均正答率を2.3ポイント上回っている。全ての記述問題で、市の平均を上回っており、指定された長さや構成を意識し、体験を交えたり事例を挙げたりしながら、自分の考えを文章に書く力が伸びてきている。 ●国語辞典の資料を使って、意見文に書く内容を捉えることについては、市の平均を3ポイント下回っている。資料を正しく読み取ることやそこから自分の考えを書き表す力が不十分である。	・引き続き、自分の考えを明確にしながら書く活動を継続して行っていくとともに、様々な資料に触れ、そこから読み取れることを考え、書き表す活動を意図的に取り入れ、様々な条件に対応した書く力を育てていきたい。
読むこと	●市の平均正答率を6.3ポイント下回っている。特に説明文では、段落の内容についての問題の平均正答率が市の平均を14.7ポイント下回っている。構成や内容を捉えて読む力に課題がみられる。	・段落や構成を意識して説明文を読むことを意識させるとともに、キーワードを捉え文章の内容や要旨を理解する力を伸ばしていく。 ・朝の読書の時間の確保や、教材文と同じジャンルや構成の本を読むなど、物語や説明文を含めて多様な文章にふれる機会を設定していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均正答率を3ポイント上回っている。謙譲語の使い方についての問題では、平均正答率が市の平均を22.5ポイント、尊敬語についても市を0.9ポイント上回っており、敬語についてよく理解できている。 ●漢字の読み書きについては、正答率に個人差があり、特に「書き」についての正答率は、市の平均を下回っているものが多かった。正しく漢字を書く力の定着が今後の課題である。	・漢字の読み書きについては、繰り返し復習させることで定着を図るとともに、熟語や同音異字、敬語など言葉の知識についても振り返る時間を意図的に設け、基礎力を伸ばしていく。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	80.7	77.5	74.0
	農業や水産業	75.8	81.1	73.7
	工業生産	73.3	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	66.7	73.7	63.2
	日本の歴史	71.9	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	65.7	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	76.1	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	74.3	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

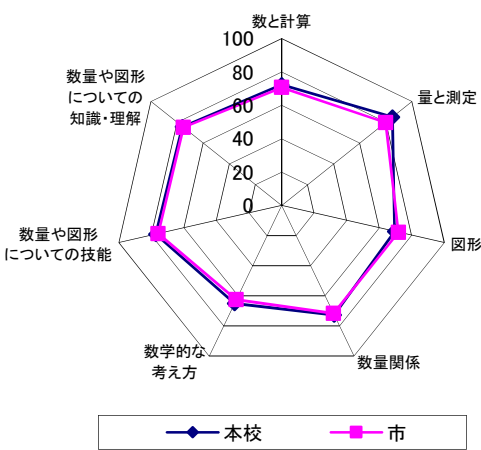
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○市の平均正答率を3.2ポイント上回っている。特に説明に当てはまる雨温図と都市の位置を判断する問題では、市の平均正答率を6.8ポイント上回っており、日本の気候の様子についての理解が定着している。	・中学校1年生の社会科の学習では、日本から世界へと視野が広がることを見据え、授業の中で地図帳にふれる機会を増やし、国土の広がりや山脈、河川等への関心が高まるように指導していく。
農業や水産業	●市の平均正答率を5.3ポイント下回っている。特に、日本の食料生産がかかえる課題を説明するのに適した資料を選択する問題では、市の平均正答率を15.2ポイント下回った。 ●農家の減少や働く人の高齢化などの農業が抱える問題について資料を読み取り、考えて表現する問題では、市の平均正答率より6.4ポイント下回っている。資料から読み取り、考えたことを表現することに課題がみられる。	・図やグラフなどの資料がどんなことを説明しているのかを読み取らせると共に、読み取ったことをもとに自分の考えを表現できるような指導を工夫していく。
工業生産	○市の平均正答率を2.2ポイント上回っている。特に工業地帯や工業地域が海沿いに多くあり、海外に船を用いて輸出入していることの理解度を問う問題では、市の平均正答率を2.5ポイント上回っており、工業地帯の立地や仕組みについてよく理解できている。	・身の回りの工業製品が生活を支えていることを意識できるよう、授業の中で指導を行っていく。
情報産業や情報化社会	○新聞やテレビ、雑誌など身の回りのメディアについての理解度を問う問題では、市の平均正答率を2ポイント上回った。 ●市の平均正答率を7ポイント下回っている。特に、医療におけるネットワークの利便性について、資料から読み取る問題では、市の平均正答率を16.1ポイント下回った。	・情報化社会の仕組みや生活の中で情報がどのように生かされているかということについて考える機会を設定し、理解を深められるようにしていく。 ・メディアの扱い方や情報モラルについて継続して指導していく。
日本の歴史	○市の平均正答率を2.2ポイント上回っている。特に、縄文時代～平安時代については全ての設問において市の平均正答率を上回った。 ●富岡製糸場は、明治時代初期にどのような目的で建てられたかを問う問題では、「殖産興業」ではなく「文明開化」と答える児童が多く、市の平均正答率を6.8ポイント下回った。	・歴史の学習への関心が高い児童が多いので、映像資料やインターネットを活用しながら歴史的事実と人物のつながりや歴史的背景について総合的にとらえられるよう指導の手立てを工夫していきたい。 ・明治維新を扱う単元では、多くの四字熟語を扱うので、内容を丁寧に説明しながら理解を深めていきたい。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.4	70.8	65.9
	量と測定	85.0	79.9	77.0
	図形	69.4	71.8	74.6
	数量関係	72.8	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	65.1	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	77.3	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	75.9	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

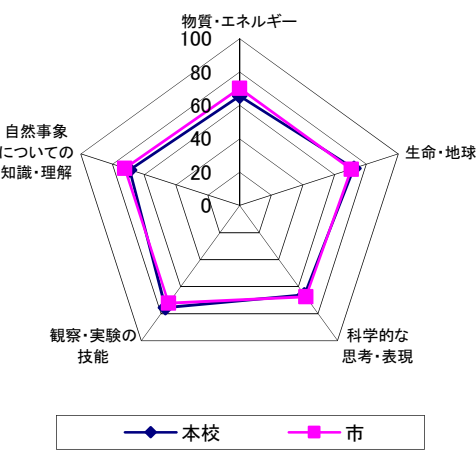
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市を1.6ポイント上回っている。4月の全国学力調査同様、数と計算の結果が良好で、特に小数の乗除算がよくできていた。本校で実施している朝の学習支援や練習問題への取組が成果につながったと考えられる。 ●図をもとに、小数倍の文章問題を解くための式を選ぶ問題では、平均正答率が50%を下回り、市の平均正答率よりも低い設問が見られた。	・授業や家庭学習の中で、復習に進んで取り組ませ、学習内容の更なる定着を図る。 ・数直線や図を正しく理解し、考え方を分かりやすくまとめたり、発表したりする場を多く設定する。
量と測定	○平均正答率は、市を5.1ポイント上回っており、85%という高い数値を示した。特に、人口密度を求める問題とひし形の面積を求める問題では、平均正答率が90%より高く、市の平均も10ポイント以上上回っている。	・様々な公式の意味を理解し、複合図形などでも応用し、確実に正しい答えが導き出せるような力を伸ばす指導を工夫していく。 ・多様な見方、考え方が必要となる学習課題の設定や授業形態の工夫改善を継続して行っていく。
図形	○五角形の内角の和を求める式を選ぶ問題では、市の平均を4.1ポイント上回っている。 ●平均正答率は、市の平均を2.4ポイント下回った。特に「対称な図形」の分野では、多角形の対称の軸や対応する点についての理解度を問う問題でどちらも市の平均正答率を下回っており、線対称・点対称についての理解が不十分であることが伺われる。	・身のまわりの線対称、点対称な図形に関心をもたせるなど日常生活と関連させながら、学習内容の定着に努める。 ・図形の特徴から、合同な作図の仕方や内角の和の求め方などについて考える時間を十分に確保していく。
数量関係	○平均正答率は、市の値を1.1ポイント上回っている。比例の関係をxとyを用いて式に表す問題の正答率が90%を超え、市の平均を3.1ポイント上回っている。また、グラフを読み取る問題において、基準量が同じとき、割合が大きい方が比べる量が多くなることを記述で説明する問題では、市の平均正答率を5.5ポイント上回った。 ●文字を使った式が表す場面を選ぶ問題では、市の平均正答率を4.2ポイント下回っている。文章題から、四則計算のどれを用いればいいのかを読み取ることに課題がみられる。	・問題を解く前に「なぜその式になったのか」「どのように問題を解決していけばよいか」という見通しをもたせる場面を多く設定してきたので、今後も継続して「なぜ・どのように」を大切に、自分の考えを分かりやすく説明できるような指導を進めていく。 ・文字を使った式については、文字ではなく数値に置き換えて考えさせたり、身近な物事で考えさせたりすることで文字への抵抗感を緩和していきたい。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	65.7	70.3	69.0
	生命・地球	72.0	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	66.1	67.5	66.4
	観察・実験の技能	75.6	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	69.2	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「物の燃え方」や「ふりこのきまり」については、ほとんどの問題で、市の平均を3～8ポイント上回り、良好な結果が得られている。 ●平均正答率は、市より4.6ポイント下回り、「物のとけ方」については、食塩を溶かす前と後の全体の重さが変わらないことの理解や、実験結果が違った理由を推測することが市より20ポイント以上下回っていた。また、「水溶液の性質」については、水溶液の水を蒸発させることで、水溶液に個体が解けているかどうか調べる設問についての平均正答率が、市を11.7ポイント下回っており、物のとけ方や水溶液の性質についての理解が不十分であった。	・物のとけ方や水溶液の性質については、実験の目的を明確にし、得られた結果から自分の言葉で分かったことをまとめるなど、学習内容が定着するような指導を工夫していきたい。
生命・地球	○平均正答率は、市より1.6ポイント上回った。特に、「植物の発芽と成長」についてはよく理解し、特に発芽と温度の関係については市の平均正答率を17.5ポイントも上回った。また、「月と太陽」で、太陽にだけ見られる特徴についての問題の平均正答率は96.7%で、市を7.7ポイント上回っている。 ●「動物のからだのつくりとはたらき」で、「拍動」という言葉の理解についての平均正答率が6.7%で、市の正答率も16.2%と低かった。また、「月と太陽」で、月と太陽の位置関係から、俳句が読まれた情景を推測する設問では、平均正答率が46.7%で市よりも9.7ポイント下回っている。概ね良好な結果を得られていると思われるが、自然事象についての言葉の理解が不十分なところが見られる。	・自然現象の分野については、普段の生活と理科の学習が結びつくように、また身近な自然事象に関心をもてるように働きかけをしていきたい。